

告 辞

桜の花が春風に舞い、あたたかな光が新しい季節の始まりを告げる本日、佛教大学通信教育課程大学院に入学された新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

佛教大学の教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。

また、これまで皆さんの歩みを支え、励まし続けてこられたご家族ならびに関係者の皆さまに対しても、深く敬意を表し、この佳き日を共に迎えられましたことを、心から嬉しく存じます。

本日より皆さんは、それぞれの志を胸に、本学通信教育課程大学院という新たな学びの扉を開かれました。この道を選ばれた皆さんの決断は、決して容易なものではなかったはずです。

仕事や家庭、地域での責任を担いながら、さらに学びを深めようとするその姿勢は、まさに「生涯学習」の理想を体現するものであり、本学が建学以来大切にしてきた仏教精神—「智慧」と「慈悲」の実践そのものです。

仏教において「智慧」とは、単なる知識の量を指すものではありません。物事を正しく見つめ、本質を見抜き、自己と世界を深く理解する力です。

そして「慈悲」とは、他者の苦しみに心を寄せ、共に生きようとする温かなまなざしです。

「智慧」が深まれば深まるほど、私たちは人の痛みに気づくようになります。

「慈悲」を持とうとするほど、私たちは学びを必要とします。

「智慧」と「慈悲」は、切り離すことのできない、仏教の根幹です。

皆さんがこれから進まれる大学院での学びは、単なる知識の蓄積ではありません。それは、自ら問いを立て、深く考え、検証を重ね、新たな知を創造する営みです。そして、その知は研究者のためだけのものではなく、社会や人々の暮らしを支え、よりよい未来を築くための礎となります。

通信教育課程での研究は、時間的にも精神的にも、決して平坦な道ではありません。学修計画を立て、限られた時間をやりくりし、孤独を感じながら研究に向き合うこともあるでしょう。時には思うように成果が出ず、迷いや焦りを抱くこともあるかもしれません。

しかし、まさにそのような困難の中で学び続ける経験こそが、皆さんの研究者としての力を育てます。そして何より、日々の生活の中で学びを積み重ねる皆さんの姿は、周囲の人々に希望を与え、

学びの価値を証明するものでもあります。

本学の通信教育課程大学院には、全国各地、さらには海外からも、多様な背景と経験を持つ方々が集います。異なる職業、異なる世代、異なる生活環境を持つ人々が、同じ「学び」という志のもとに集う。それはまさに、互いの経験を持ち寄り、知を深め合う、貴重な学術共同体です。

皆さんには、オンラインでの交流や研究会、指導の機会を積極的に活用し、学びの仲間とつながりながら、互いに励まし合い、刺激し合い、共に成長していただきたいと思います。

大学院での学びは、人生の中でも特に濃密な時間となります。私自身の大学院生活を振り返りましても、研究が進まず、幾度となく立ち止まりそうになった経験があります。しかし、その苦しさを乗り越えた先にこそ、物事の見え方が変わる瞬間があり、学びが人生を支える力となることを実感できました。

皆さんもこれから研究を通して、これまで見えなかったものが見え、これまで言葉にならなかったものが言葉となる瞬間に出会うことでしょう。

その積み重ねが、皆さんの人生を深め、社会に新たな価値をもたらしていきます。

佛教大学は1912年の開学以来、仏教精神を根幹として、人間としての成長を支える学びを大切にしていきました。本学の通信教育課程大学院もまた、その精神を受け継ぎながら、学びを求めるすべての人に門戸を開き、共に歩む存在であり続けます。

新入生の皆さん。

皆さんがこれから進める研究は、皆さん自身のためだけではなく、必ず社会に生きる人々の未来につながっていきます。

どうか志を高く持ち、焦らず、しかし着実に、一步一步前へ進んでください。

佛教大学は、皆さんの学びを支え、皆さんの挑戦に寄り添い続けます。

皆さんの大学院生活が、実り多き探究の日々となりますことを心より祈念し、私の告辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

令和8年4月4日 佛教大学長 佐藤 和順